宇部日報　2022年〈令和4年〉6月30日 木曜日

創刊110周年記念

誇れるふるさと

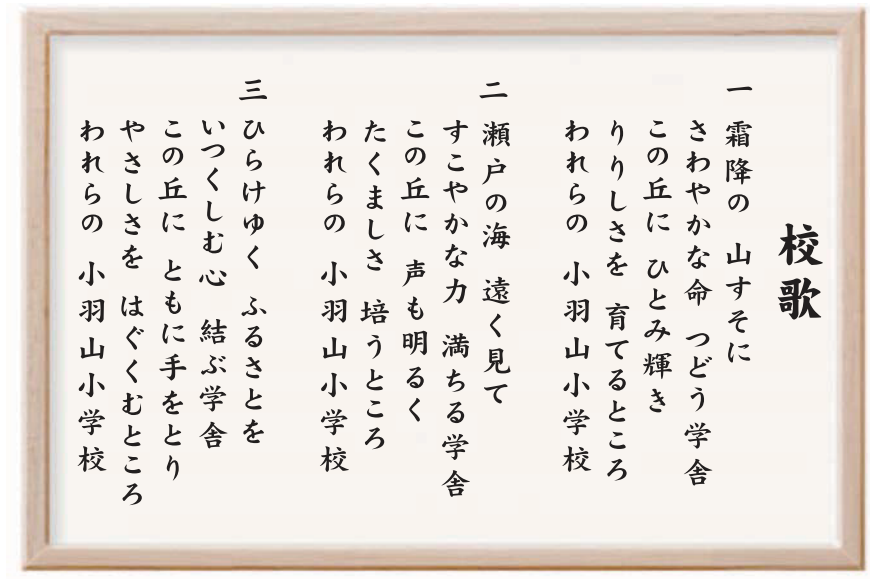
24地区リレー

〈vol.3〉

＜小羽山③ 小学校歌＞

初代校長ら教員が作詞作曲

宇部市に小羽山地区が誕生した1981年、小羽山小（富田紀子校長、299人）も開校した。池本一夫初代校長や当時の教員らの熱意により教育目標や校歌が制定され、今の小羽山小の基礎が築かれた。



校歌

一 霜降の　山すそに
さわやかな命　つどう学舎
この丘に　ひとみ輝き
りりしさを　育てるところ
われらの　小羽山小学校

二 瀬戸の海　遠く見て
すこやかな力　満ちる学舎
この丘に　声も明るく
たくましさ　培うところ
われらの　小羽山小学校

三 ひらけゆく　ふるさとを
いつくしむ心　結ぶ学舎
この丘に　ともに手をとり
やさしさを　はぐくむところ
われらの　小羽山小学校

教育目標、分かりやすく

1981年に開校した小羽山小の校章

校章は小羽山ふれあいセンターの藤井尊介館長（71）がデザインしたもの。当時は上宇部中の美術教諭で、同校の校章選定委員会のメンバーだった。校章は「小羽山」の地名からイメージを膨らませ、円形の下に山を三角形でかたどり、左右に大きく羽を広げて力強さを表現した。今春着任したばかりの藤井館長は、当時を懐かしむ一方で「ふれあいセンターは地域の人が集う拠点。誰もが来やすいよう魅力のある環境をつくっていきたい」と思いを語った。

開校時の歴史がつづられている開校10周年記念誌（同記念事業委員会編集・発行）によると、校歌は開校から7カ月後に制定された。作詞、作曲ともに専門家に依頼せず、同校の職員によって一から策定されたのが大きな特徴。池本初代校長を中心とした校歌制定委員会が協議し、詞には校訓の「桜のように　りりしく　梅のように　やさしく　くすのように　たくましく」を基にした教育目標を採り入れ、分かりやすい言葉を使った。作曲は当時、同校の音楽教諭だった山野昭正さんが担当した。

同校では毎朝午前8時10分に一日の始まりの合図として校歌の1番が放送で流れる。富田校長（57）は「コロナ禍で校歌を歌う機会が減り、校内行事などの思い出との結び付きが弱くなっているのが残念」と話す。「6年間口ずさんだ校歌は年を取っても覚えているもの。大人になってから古里を懐かしみ、思い出す大きな核にしてほしい」と語る。